

令和4年度 天童市学習支援室リバテラスちえふる

通信「ちえふる」6月号



未来を生きぬくための「探究」の力を育む

高校では、これまで「探究」と付いた科目は一つもありませんでした。今年度から教育内容を定めた高校の学習指導要領が改訂され「探究の時間」など「探究」と付いた科目が7つも設けられました。

探究とは文字通り、答えが1つではない課題を「探り」「究める」ことです。通常の授業は、教師がほぼ一方的に進めるのに対し、「探究」は生徒自身が課題を見つけ、問いを立て、情報を集め、意見を交わしながら課題解決を探っていきます。

「探究」が重視されるようになった背景には、社会や時代のIT化、グローバル化、多様化があります。単なる暗記知識は、パソコン、スマホですぐに答えが見つかる一方で、差別や環境、高齢化などの課題は、複雑に絡み合っています。そんな中で、未来を生きていくためには、自ら課題を見つけ解決していく力の必要性が、ますます問われているのです。

ところで、先日、県内のある高校生の「総合的な探究の時間」の取り組みを振り返り、「地域の人と多く関わることができた」「仲間とのコミュニケーションの大切さを学ぶことができた」「プレゼンテーションの力を上達させることができた」ことを成果にまとめた文章が、私の目に留まりました。「探究」で身に付けた力は、社会人としてよりよく生きていくために確かな力になると高校生の文章から改めて感じました。



池上彰は著書「なぜ、いま思考力が必要なのか？」（講談社α新書）で、次のように述べています。「自分の生き方、暮らしている地域や国、自分が長年培ってきた常識などに対して、改めて疑問を持ち、問いを立てるとするのは非常に難しいことです。だからこそ意識して冷静で客観的な視点を持ち、本来的に何が問題なのか、常に問い続けなければ、現実の問題点というのはなかなか見えてきません。」

日頃から「なぜ？」「本当にそうなのか？」という視点でものごとと関わり、問いを立てる力を高め、より一層探究の力を育んでいきたいものです。

学習相談日の開催について

無料

5月号でお知らせした学習相談についての詳しいお知らせです。事前申し込みが必要ですが、中学生、高校生なら誰でも申し込みができます。夏休みの宿題対策などにご活用ください。講師は、現役の大学生です！

【期間】8月初旬～中旬の7日間

（期日は講師の方と調整中）

【対象生徒】中学生、高校生

【質問教科】①中学校 国語・数学・理科・英語

②高校 数Ⅰ・数A・数Ⅱ・数B

化学・生物、英語

【相談時間】一人1日1時間（希望日と相談時間は先着順）

【申し込み方法】

- ・指定の申し込み書に記入の上、学習支援室に直接提出してください。
- ・申し込み書は7月に入ったら学習支援室受け付けに準備します。ホームページからもダウンロードできるようにします。

